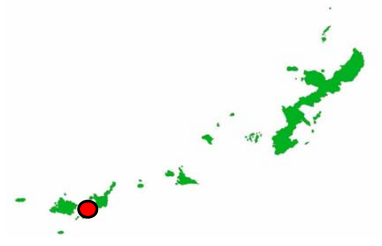
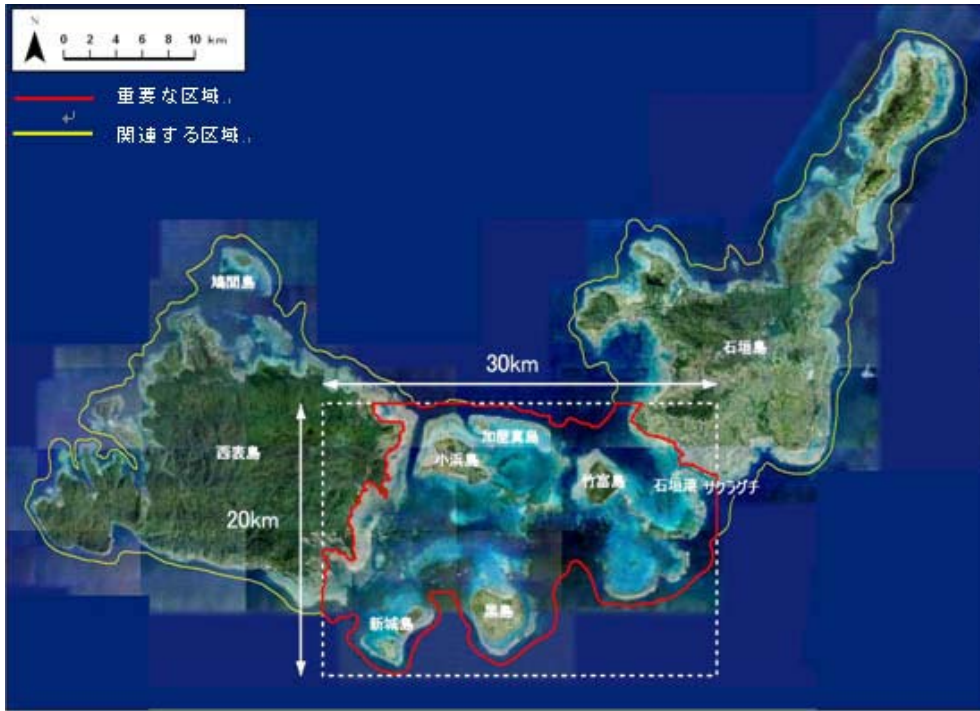
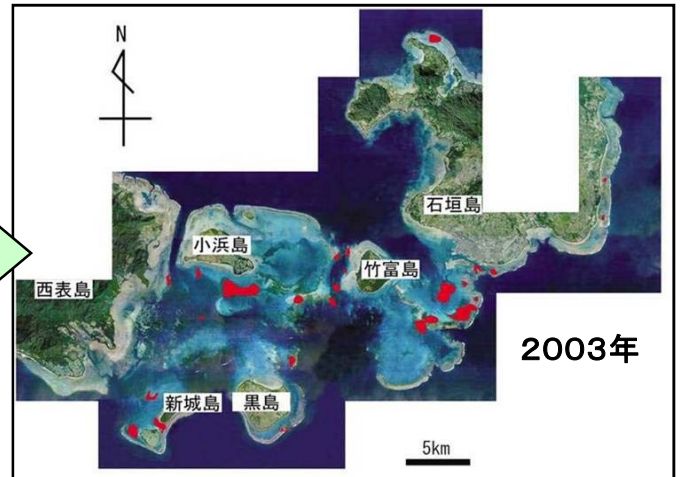
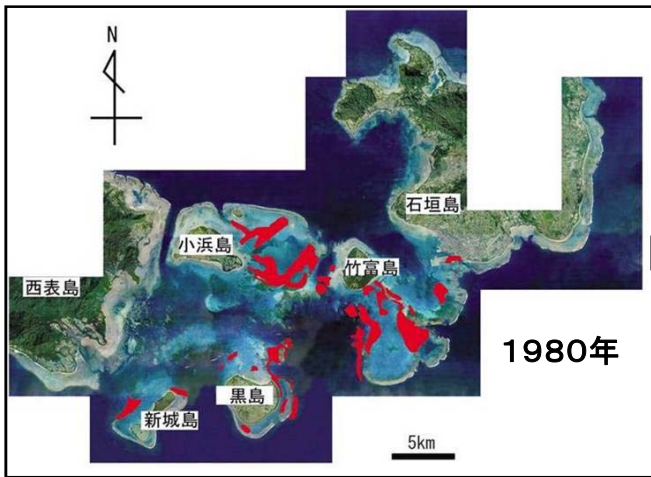


せきせいしょうこ
石西礁湖自然再生協議会



自然再生の対象となる区域(全体構想より)



石西礁湖のサンゴの衰退

※図中の赤地域: 枝状ミドリイシ高被度地



オニヒトデの大量発生による食害



海水温の上昇に起因する白化現象



赤土流出等、陸域からの環境負荷

竜串自然再生協議会の取組

1 再生内容

サンゴ群集の再生

海底に堆積した泥土除去のほか、森林や河川からの土砂流出や生活排水など流域からの環境負荷への対策を通じて、サンゴ群集の再生に取り組む。

2 自然再生協議会

平成18年9月に組織化し、現在の構成員数69。

個人(専門家を含む)24、団体17、関係地方公共団体22、関係行政機関6

3 自然再生全体構想

平成20年3月に作成。

○自然再生の対象区域

対象区域(竜串湾全域320ha)と関連する区域(三崎川～宗呂川流域)の両区域。

○自然再生の目標

竜串湾内に本来生息しているイシサンゴ類をはじめとする多くの生き物が健全な状態で生き続けていける環境を取り戻すことを目指す。

①沿岸生態系の保全と再生(対象区域及び関連区域)、②自然と共生した活力ある地域づくり(地域社会)の2つの個別目標を設定。

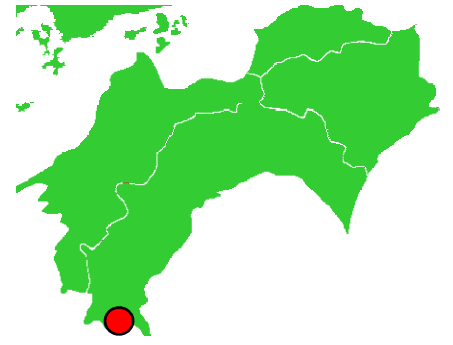
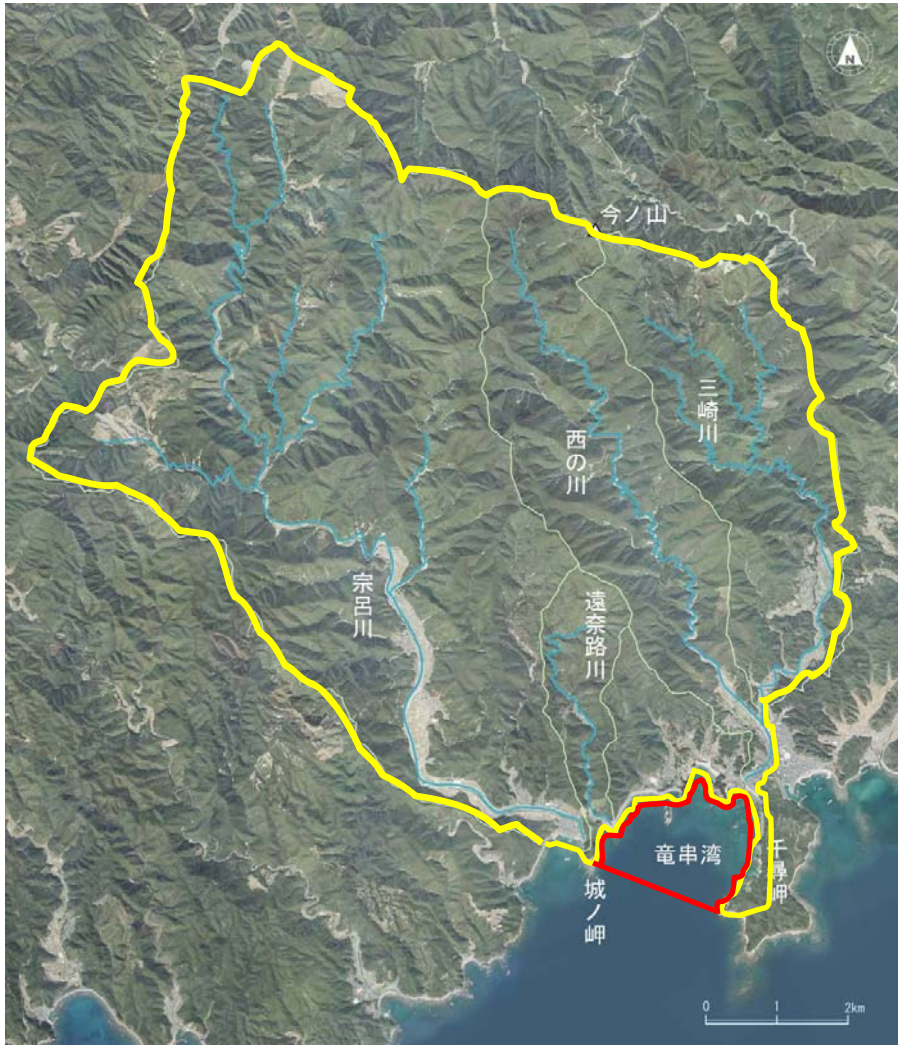
4 自然再生事業実施計画

検討中。

【進捗状況】

実施計画の作成に向け、泥土堆積の著しい区域において、海底堆積土砂の除去実証試験を実施(約1.39ha)。また、サンゴ保全に資するため海域の水質等の調査・モニタリングを実施しているところ。

たつくし
竜串自然再生協議会



- 対象区域(海域)
320ha
- 関連区域(陸域)
7,780ha

自然再生の対象となる地域(全体構想より:8,100ha)



下層植生が発達していない
ヒノキ林地の林床(西の川流域)
(間伐等の森林整備を検討)



植生の回復が見られない崩壊地
(西の川流域)



降雨時の西の川と三崎川の合
流点の状況
(左:西の川、右:三崎川本川)



衰退したサンゴ群集



海底に堆積した泥土
(吸引による泥土の除去を検討)

中海自然再生協議会の取組

1 再生内容

湖沼環境の保全・再生

湖の富栄養化や水質の悪化、開発による湖形状の改変、アマモ場の消滅、水産資源の減少など、失われた中海全域の自然環境の再生に取り組む。

2 自然再生協議会

平成19年6月に民間団体「自然再生センター」の呼びかけにより組織化し、現在の構成員数64。

個人(専門家を含む)47、団体4、関係地方公共団体9、関係行政機関4

3 自然再生全体構想

平成20年11月に作成。

○自然再生の対象区域

境水道を含む中海本体(86.8km²)と大橋川を除く中海に直接流入する河川の全集水域(595km²)。

流域には、島根県松江市、安来市、東出雲町、鳥取県米子市、境港市を含む。

○自然再生の目標

「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合い言葉に、昭和20年代後半から30年代前半の豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環の再構築を目指す。

4 自然再生事業実施計画

検討中。

【進捗状況】

実施計画の作成に向け、飯梨川河川敷の親水性の向上と牧草地化による維持管理、中海浚渫窪地の環境修復、アマモの再生などに取り組んでいるところ。